

富山のNPO

富山市のNPO法人が、美術館の作品解説などで活用されているイヤホンレシーバーを使い、スポーツ観戦者に実況とルール解説をする「観戦ナビゲーション」を始める。5、6日、富山県魚津市で開催されるプロバスケットボールbjリーグで初導入。評判がよければ、より多くのスポーツに拡大するとう。

bjリーグで

05年に発足した「富山スポーツコミュニケーションズ」で、佐伯仁史理事長(43)は「間近で観戦する感動、興奮、面白さを味わう一助に」と話す。利用者は事前に事務局に申し込み、会場でレシーバーを受け取る際に保証金10000円を渡す。

イヤホン実況

試合中はスポーツ指導者らがレシーバーを通してルールやプレーの意図などを解説。保証金はレシーバー返却時に戻ってくる。同NPOはこれまで、佐伯さん解説のサッカーJリーグ観戦ツアーなどを催したが、近くにいる人にしか声が届かない。そんな時、

5、6日初の「観戦ナビ」

佐伯さんは、国際会議の通訳で使われている耳掛け式の小型イヤホンレシーバーを見た。「スポーツ解説に使えるか」と考え、1台約1万5000円のものを買った。同NPOのホームページ (http://www.toyama-sc.net) 【青山郁子】